

令和4年度 江戸川区立篠崎第五小学校 学校関係者評価 最終評価用報告書

学校教育目標	思いやりのある子 よく学びよく考える子 心も体もつよい子	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	夢と勇気と笑顔にあふれる学校 学力と体力が向上する児童 正しく丁寧な言葉遣い 分かる授業を追求する 元気な挨拶をする 教職員
前年度までの学校経営上の成果と課題	<成果>挨拶・礼儀・言葉遣い・態度・笑顔を中心とした指導を行ってきた結果、児童自ら挨拶ができるようになり、相手を気遣う言葉かけもできるようになった。児童同士が良好な関係を築くことができ、不登校児童ゼロだった。地域からも保護者からも本校児童の礼儀正しさについて、高評価を受けることができた。 <課題>学力面では、全国学力・学習状況調査の算数の平均正答率が全国平均から7%低かった。基礎学力の定着のために、一人一台端末を活用して個別最適な学びを充実させるとともに、主体的・対話的で深い学びにつなげる授業を積み重ねる必要がある。		

教育委員会重点課題	取組項目	評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価		学校関係者評価		来年度に向けた改善策	
					取組	成果	成果と課題	評価		コメント
いきいきと学ぶ学校	確かな学力の向上	・7つの主要な事業(取組)に対しての学校の組織的な対応による取組の実施・充実	・「確かな学力向上推進プラン」の実施・改善 ・「各教科等の連携教育プログラム」の改善・実施 ・一人一台端末を活用した個別最適な学びの実現 ・学力向上のための補習の充実 ・教科担任制の導入 ・「eライブラリアドバンス 江戸っ子study week」の実施	・東京ベーシックドリル診断テストを4月と7月に行い、各自の正答率を1問以上、上昇させる。 ・小岩第二中学校との連携を、年3回行う。 ・学習タイムで週1回、eライブラリアドバンスに取り組み、各学期で江戸っ子study weekを実施する。 ・高学年の理科と社会で、教科担任制を導入する。	○東京ベーシックドリル診断テストの4月と7月の結果を比較すると、3年生で6.5ポイント、4年生で1.1ポイント、6年生で4.2ポイント上昇している。満点割合も3年生で3.4ポイント上昇している。 ○学習タイムで週1回、eライブラリアドバンスに取り組み、1学期に家庭の協力のもと、江戸っ子study weekを実施することができた。	A	B	B	学力向上に向けて、組織的な取組を今後も続けてほしい。 ICT活用については、保護者の協力も必要のため、一人一台端末の活用の仕方について、丁寧な説明が必要。 学力向上に向けて、東京ベーシックドリルの結果を踏まえ、学習タイムを有効活用していく。 教科担任制の取り組み方や評価方法、有効活用について検証していく。	・今後も、中学校の授業参観や教科別の小中連携プログラムの作成、チャレンジ・ザ・ドリームの受け入れ、新任者の課題別研修等を実施し、積極的に小中連携を深めていく。 学力向上に向けて、東京ベーシックドリルの結果を踏まえ、学習タイムを有効活用していく。 教科担任制の取り組み方や評価方法、有効活用について検証していく。
	体力の向上	・「運動意欲の向上」に向けた取組の実施・充実	・休み時間を活用した「しのご〜タイム」の実施	・しのご〜タイムを年35回行い、大縄大会、持久走大会に向けた練習も組み込んで計画的に行う。	○しのご〜タイムを計画的に実施している。今後、大縄大会や持久走大会等の行事に向けてさらに充実を目指す。	A	B	A	校庭で、教員も一緒に外遊びをしている様子をよく見かける。今後も、子供たちの体力向上の取組を計画的に進めてほしい。	・今後もしのご〜タイムを中心として、組織的かつ計画的に進めていく。
	読書科の更なる充実	・読書を通じた探究的な学習の実施・充実	・読書科の実施 ・司書、公共図書館との連携強化 読書科についての研修の充実	・各学期に1回、読書を通じた探究的な学習を行う。 ・週1回、司書が来校し、蔵書の整備やカンパレンスを行う。各学期に1回、公共図書館の担当者と連携会議を行う。 ・年3回、担当教諭が読書科についての研修に参加し、伝達講習を行う。	○各学期で1学期に読書を通じた探究的な学習を行い、夏休みの調べ学習等で意欲的に取り組む児童が多かった。 ●司書をさらに活用し、教科に即したカンパレンスを行い、読書科への取組を活性化させる。	B	B	B	今後も蔵書システムを有効活用してほしい。	・読書科の取組や好事例について校内で共有していく。 ・学校図書館を活用した調べる学習コンクールで銀賞を受け、全国コンクールでも佳作に入賞した児童がいた。全校に作品を紹介し、賞賛することで、読書科での学習意欲を高める。
特別支援教育の推進	共生社会の実現に向けた教育の推進	・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の充実	・「学校2020レガシー」の設定 ・共生社会を実現する支援シートの充実 ・副籍交流 ・エンカレッジルームの活用促進	・年1回高齢者施設を訪問し、ボランティアマインドを育てる。 ・様々な状態の児童の実態に即した支援シートの充実と連携型個別指導計画の内容の充実を図る。 ・毎月、副籍交流を行う。 ・エンカレッジルームについて、ホームページ	●高齢者施設との交流は、今後の感染状況を見ながら調整していく。 ○児童の実態に即した支援シートと連携型個別指導計画を作成し、校内の教職員や巡回指導教員と共有し、指導に生かしている。	B	B	A	地域でも感染症対策やマスクの着用、熱中症対策との兼ね合いについて話題になっている。高齢者にとっては、人との交流の場が欠かせないため、子供たちとの交流も楽しみにしている。今後も感染症の状況を見ながら、地域の人々とのつながりを大切にしていきたい。	・日頃から学校評議員の方々との連絡を密にし、より良い交流の仕方を検討していく。 ・特別支援について、今後も、養護主任教諭や特別支援専門員を通して巡回教員との連携をはかり、校内教員との情報共有、指導方針の共有をしていく。
	子供たちの健全育成	・子供たちの健全育成に向けた取組	・江戸川区子どもの権利条例の理解 ・「Q-U」の実施 ・いじめの未然防止、早期発見、早期対応の強化 ・スクールカウンセラーによる4、5、6年生の全員面接	・学期初めに、一人一台端末にある江戸川区子どもの権利条例を活用する。 ・6月に「Hyper Q-U」を実施し、分析結果を学級経営や個人面談に生かす。 ・各学期に1回、いじめに関するアンケートを行い、早期発見、早期対応に努める。 ・スクールカウンセラーによる全員面接により、子供たちの悩みや思いを聞き取る。	○6月にいじめに関するアンケートを実施し、早期発見、早期対応に努めた。どの案件も、担任を中心に対応し、1学期中に解決することができた。 ○「Hyper Q-U」を実施し、学級経営や個人面談に活用することができた。 ○スクールカウンセラーによる全員面接で、子供たちの悩みや思いを丁寧に聞き取っている。	A	A	A	子供たちの挨拶が、気持ちが良い。地域でも、大人が積極的に子供たちに挨拶をするよう、声掛けしている。	・今後も「いじめの見逃しゼロ」を目指し、年3回のアンケート、SC面談やHyper Q-U等を活用し、日頃の様子を見守ることで、いじめの早期発見、早期対応に努める。
学校と家庭、地域	学校関係者評価の充実	・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施・改善	・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施・改善	・年2回、学校関係者評価を実施し、教育活動について改善する。	○6月に2年ぶりに学校評議員会を開催し、貴重なご意見を伺うことができたため、今後の学校運営に生かす。	A	A	A	今後も評議員会を開催してほしい。	・定期的に評議員会を開催し、地域との連携を深めていく。
	篠五家庭ルールの徹底	・SNSの使い方や情報モラルの徹底	・外部関係機関と連携し、SNSの安全な使い方や情報モラルについて指導する。 ・長期休業中、篠五家庭ルールふり取り週間を設け、周知徹底を図る。	・SNSの使い方、情報モラルについての肯定評価8割以上を目指す。	○警察や関係機関の方を招き、生活安全、SNSの使い方や情報モラル、子供たちに指導をしていただいた。 ○夏季休業中に篠五家庭ルールふり取り週間を設け、SNSルールの徹底を図った。	A	A	A	子供たちが明るく挨拶をしてくれるので、安心して学校生活が送れている証だと思ふ。生活指導や食育、アレルギー対応など苦労も多いと思うが、支援していきたい。	・今後も、家庭と地域、関係機関との連携を深めていく。子供たちの健全育成のため、ソーシャルスキルワーカーと連携し、子供たちの生活リズムの維持やゲーム依存防止等について情報共有し、家庭や地域との連携を深めていく。
特色ある教育の取組	「学校における働き方改革プラン」に基づく取組の実施	・学校における働き方改革プランに基づく取組の実施	・学校経営支援を担う人材の導入	・職員時間外勤務月45時間以内を目指す。 ・スクールサポートスタッフ、副校長補佐を導入し、校務軽減を進める。	○学年会計業務、行事予定の入力、感染症対策等の面で、校務改善を進めることができた。	A	B	B	教職員の在校時間の長さについて心配している。負担を軽減し、教育活動に専念できるように環境を整えてほしい。	・職員の時間外勤務45時間以内を目指す、さらに校務改善していく。
	学校農園を活用した活動	田んぼの学校・篠竹の学校、農園のある学校として、活動の充実	・6年生は稲掘り、5年生は稲作、4〜1年生は農園での野菜作りを通して、農作物を育てる楽しさや大変さを体験させる。	・農園活動について児童、保護者の肯定評価8割以上を目指す。	○田んぼの学校の取組をはじめ、各学年の農作物も順調に生育し、貴重な体験活動ができた。学校応援団の方々の協力も得ることができている。	A	A	A	学校応援団のメンバーを増やしていきたい。	・学校ホームページ等で積極的に情報発信し、地域の理解と協力を得ている。PTAと連携し、農園の作業日を定期的に設け、学校・家庭・地域が協働して、学校の特色を生かしている。